

# 群馬県山岳連盟

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1  
群馬県庁観光物産課内  
TEL 027-223-1111 内線3151

編集発行人  
群馬岳連編集部 羽野順一  
印刷所 朝日印刷工業(株)



## 平成十一年度群馬岳連總會報告

### 群馬県山岳連盟

会長 星野 光

群馬県山岳連盟平成十一年度總會が、五月十五日(土)午後五時から群馬県民会館第八・九会議室に理事および評議員を集めて開催された。

冒頭、星野会長が開会挨拶に立ち、二〇〇〇年一月に登頂をめざす「群馬県冬期マナスル登山隊2000」の計画の達成、また、来年初、利根郡水上町・谷川岳に全国から登山愛好者を集めて開催される第三十九回全日本登山体育大会の準備に向けて、各会員の支援と協力を要請した。続いて中曾根弘文顧問に代わって秘書中村秀雄氏から、岳連事業を応援したい旨の挨拶が行われた。

本年度岳連役員は前年度からの継続であるため、直ちに議案審議に入り、岳連規約に従って議長を会長が担当して進められた。

始めに平成十年度事業報告(第一号議案)を、女屋事務局長が、議案書に従って総務部・編集部・遭難対策部・登山指導部・海外登山部・国体部・自然保護部・事業部・クライミング部の各部にわたって説明を行い、拍手多数で承認された。

続いて平成十年度会計収支決算

報告並びに平成十年度基金調書報告(第二号議案)が会計担当の富山副会長により行われ、これについてすでに実施された監査結果が、北村・堀口両幹事によって、適正に処理されていたと報告され、決算書・基金調書通りに承認された。

次に平成十一年度事業計画(第三号議案)について女屋事務局長から提案され、引続き提案された平成十一年度予算並びに平成十一年度補助金等の内訳案(第四号議案)とともに一括審議された。

事業費の中には、第三十九回全日本登山体育大会準備のために一〇〇、〇〇〇円、水上町に建設が予定されているスキー山岳博物館の資料調査のために五〇、〇〇〇円が計上された。

第三号議案・第四号議案とも議案通りに承認が行われて、總會の議事を終了した。

### 《平成十一年度主要事業計画》

#### 一、遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動および救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

#### 二、国体への参加と選手強化

第五十四回国体山岳競技関東地区大会(埼玉県)への参加と、くまもと未来国体(熊本県)山岳競技会における好成績達成を目標とする選手強化を推進する。

#### 三、日山協主催行事等への参加と各会の交流

日山協行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

#### 四、美化活動等市民運動への参加

尾瀬のゴミ持ち帰り運動、平標山自然保護運動及び榛名山黒岩周辺の美化活動等の推進に協力する。

#### 五、岳連会報の発行

「山岳ぐんま」の発行を通じ、会員相互の結びつきと啓蒙を図る。

#### 六、海外登山

第八次群馬岳連ヒマラヤ登山として、ネパール・ヒマラヤ、冬期マナスル登山を実施する。

#### 行動計画

一九九九年九月十一日  
シシヤパンマでプレ登山。  
(八、〇二七mの高度体験)

#### 二〇〇〇年一月〜二月

#### マナスル登山。(八、一五六m)

#### 七、第十回山田昇記念杯登山競争大会の開催

群馬が生んだ登山家、山田昇氏の業績を後世まで伝えるため、登山の基本である体力を競い合

い、登山の啓蒙・普及・発展の一助とする登山競争大会を開催する。

#### 開催期日 十月三日(日)

#### 会場 武尊山(利根郡川場村)

#### 八、第二十三回県民登山大会の開催

「県民の日」制定記念事業の一環として、一般県民から参加者を募集し、県民登山大会を開催する。

#### 会場 小野子山・十二ヶ岳

#### (吾妻郡高山村・小野上村)

#### 九、第三十九回全日本登山体育大会の開催準備

平成十二年度に本県で開催される第三十九回全日本登山体育大会の開催準備を推進する。

#### 十、各種研修会及び講習会の開催

指導員会及び遭難救助隊が主管して一般会員を対象に登山技術講習会を開催し、併せて指導員の資質の向上を目的として研修会を開催する。

#### 十一、岳連事業収入の確保

岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成十二年版山岳写真カレンダーの作製・販売などの事業を行い、自主財源を確保する。

#### 十二、スキー・山岳博物館資料調査の推進

利根郡水上町に建設が計画されている「スキー・山岳博物館」に展示する山岳資料の調査を推進する。

# 第三十九回全日本登山体育大会について

群馬岳連理事長 八木原 窓明

来年、平成十二年(二〇〇〇年)九月に標記の全日本登山体育大会(略して全日大会)が本県に二度目の大会としてやって参ります。

昭和三十五年(一九六〇年)五月に関東地区として初の第四回大

会が尾瀬で開催されて以来、四十年ぶりに、ちょうど西暦二〇〇〇年というきりの良い年にやって参ります。尾瀬大会については本岳連五〇年誌に昔なつかしい写真とともに載っております。是非ご覧下さい。

二度の高校総体やら色々大きな登山界としての行事がありましたが、昭和五十八年(一九八三年)の「あかぎ国体」以来の大イベントになるかと思ひます。

この全日大会が何故群馬で開催されるのか、また、どうして谷川岳を選んだのかを少しお伝えしながら、岳連会員の皆さんのご協力

を得たいと思ひます。

昨年の暮れ頃だったか、日山協の常務理事会の終わった後の雑談などで「全日大会がやってくる。関東地区が担当なんだが、まだ決まっていない。急いで決めないと間に合わない。本当はまだやっていない東京が茨城か千葉岳連が引き受けるべきなんだが、どうしてダメだと言っている。群馬さん引き受けてくれないかな」と冗談のような話が出始めた。しかし全くそんなことは考えたことも無い私は関係のないことと、そしらぬ顔をしていた。

今年になつてからか、「群馬で開催を引き受けてはもらえないか」と段々と強く言われ始め、とうとう「本年二月末に栃木県の那須で開かれる『関東地区岳連連絡協議会』の席上で群馬岳連にお願ひしよう」という話にまで進んで行った。

これには伏線もあつた。つまり、谷川岳の麓あたりに登山研修所や博物館などを作って欲しい、と話している私共群馬岳連が、やはり「山岳博物館などを是非とも地元

町や利根沼田地域の皆さんの後押しを勝手連的にやろう、と岳連内に「スキー・山岳博物館資料調査委員会」を作り、その調査の範囲を群馬県内だけでなく、関東全域、特に谷川岳の開拓期を担つて来た東京、神奈川県(京浜地区)の皆さんにご協力をお願いしたい、と日山協の常務理事会でお願ひをしたため「調査には協力するから、群馬岳連が全日大会を引き受けてくれ」という感じの取引的な強い要望となつた側面もあつたのは事実である。

那須の連絡協議会には名塚副理事長、角田国体委員長と私が出席した。その会議で正式に「二〇〇〇年の第三十九回全日大会を群馬岳連で引き受けて欲しい」と要請された。

しかし「こんな大きな話は理事会にはからなくては決められない」と返事は保留し、翌朝の朝食時に「群馬さんにお礼を言おう」として「ヤギさんひと言挨拶を」と言われたが、私は一言も発しなかつた。

もちろん腹の中ではここまで来たら受けざるを得ない、次の理事会で承認を得ようとは思つていた。それによつて登山研修所、博物館構想も水上町と協力することによつて「一気に解決」とまでは行かなくとも「少しは推進したい、出来るかも知れない」と考えたのも

事実である。

三月中旬、私は水上町観光協会を訪ね、木村嘉男会長、須藤彦文専務理事、黒田克己町商工会事務局長に全日大会への協力をお願いし、腰越水上町長にも同趣旨のお願ひをしたが、四月の岳連理事会には木村、須藤、黒田の三氏がわざわざ挨拶に向向いて下さつた。

現在、群馬県は谷川岳の登山条例の見直しと登山指導センターの多機能化などを検討し始めている。現在、当日登山届けを出せば良いことになっているのを日山協加盟山岳会員だけでなく、日本勤労者山岳連盟会員にも広げる。ゴールデンウィークの頃に毎年決まつたように一ノ倉沢などの危険地区が登山禁止になるので、それをもつときちんと見直す、条例の冬の期の適用化などである。条例は安全に楽しく登山するために運用されなくてはならない。

谷川岳に関わる事項が今、一気に噴出した感があるが、歴史の流れ(オーバーだ)がそういう方向へ向いたということであろうし、何かが進む時というのはそんなものであろう、とも思う。

何にしても地元・水上山岳会をはじめとする群馬県山岳連盟の総力を挙げて準備に当たり、来年中旬の本番成功に向けて邁進したいと思ひます。会員の皆さんのご協力をお願い申し上げます。



# 雪崩 ビーコン

群馬岳連指導委員長 阿部 源

最近、冬山で雪崩ビーコンを首から下げている登山者を見かける。スノーボーダーの間では、三種の神器と呼ばれる、ビーコン・携帯ゾンデ・スコップがもはや常識になっているとも聞く。群馬の場合はどうであろうか。

私は三月に日山協の冬山レスキュー講習会に参加し、初めて雪崩ビーコンを手にした。それ以前は見たことはあっても、使ったことはなかった。

岳連の冬山講習会で、ビーコンの講習会を行いたいと考え、各山岳会に聞いたところ十台しか集まらなかった。信越化学が五台、谷川岳警備隊三台（一台は発進のみ）、個人で一台、山とスキーの店石井より一台借用、の十台である。

信越化学では、何年前かに、妙高でスキーツアー中に雪崩に流された事があり、それを機にビーコンとゾンデを購入したそうである。また、個人の1台は、以前所属していた山岳会で冬山の個人装備として必ず購入し、雪山の山行には携帯が義務づけられていた。毎年訓練を行い、使い方の習熟に努め

ているとのことだった。

ビーコンは、なだれの発生を予知したり雪崩に遭うのを防ぐ道具ではない。雪崩に埋没した者を、いかに早く発見し、救助するためのものであることは周知のことと思う。

雪崩に遭わないために大切なこととしては、

雪崩の発生メカニズムを知る。  
過去の気象変化を知る。  
弱層テストを行う。

危険予知本能を高める。

（雪崩考'98）

などが言われている。

しかし、いかに注意深く行動したとしても、一〇〇%雪崩を回避する事はできない。

「身軽に逃げることで、脱出のチャンス最後までねらうこと、これ以上は無理ではなからうか。あとは天命に任せるほかあるまい。」これは『高みへのステップ』の中にある記述である。

これまででは、雪崩に埋まった時に、早期に発見し、救助する方法は無かったと言える。スカップ、コールも現在では有効ではないと言われている。救助された場合で

も、手や足が出ていたなど、運が良かったとしか思えない場合が多い。

雪崩は埋没してから十五分以内に発見し、適切な処置を行えば、助かる可能性が高い。しかし、時間とともに生存率は急激に低下し、

四十五分で二十六%になる。それ以降は徐々に生存率は低くなる。

十五分以内の発見・救助が生と死を分けるポイントであると言われている。

私は、冬山レスキュー講習会で、

短い時間ではあったが、ビーコンの訓練を受けた。そして、慣れればかなり早い時間で埋没地点を特定する事はできると感じた。講師によれば、五分で可能だそうである。

しかし、ビーコンの有効性を疑問視する意見もある。パニックに近い状況の中で、冷静に行動できるか疑問だとの考えである。全員が埋まったらどうしようもないと言う人もいる。

雪崩の事故は、他の山岳事故と異なり、救助を依頼し、救助隊により救出されるという事ができない。時間との勝負である。自分たちだけで、埋没者を発見し、救助する、セルフレスキューを行わなければならない。



ビーコンを持つ講習生

雪崩事故のセルフレスキューでは、ビーコン、ゾンデですばやく埋没地点を特定し、スコップで掘り出す、これより他に方法がないといえる。

雪崩ビーコンは、確かに有効ではあるが、普及しない要因に、価格の高い事がある。現在、日本で購入できる機種は、アルペンビーコン

—1500

（日本）  
オルトボックスF1フォーカス  
（ドイツ）

などであるが、四万円近くする。最新のデジタルビーコン、トラックカーも四万円以上する。価格が高いから、普及しない。数が少ないから、価格が高い。これからも価格が大幅に下がることは期待できない。今年の冬には、二万円台のデジタルビーコンが販売されるとの情報もあるが、確かではない。

大分前の話になってしまったが、槍ヶ岳の肩の小屋に閉じ込められたパーティーの救助に向かった、群馬のN山岳会のパーティーが、槍平で雪崩に遭い流されるといふ事故があった。幸い全員が脱出できたが、最後の一人Kさんが仲間により掘り出されたのは、発生から四十五分後であった。そのため、すでに意識が無く、チアノーゼを示していたそうである。危ない状況だったのである。

この時、N山岳会のパーティーが全員ビーコンを持ち、訓練を行ない、使い方に習熟していたら、また、全員がスコップを持っていたら、もつと短い時間で、発見救出できたと思う。

何分かの差が、生と死を分ける事がある。

雪崩ビーコンに関しては、群馬岳連においても、研究と議論を行う必要があると考える。



平標小屋から平標山頂を望む

# 平標山自然保護活動にご協力を

## 自然保護部

昨年に引き続き、登山道周辺の貴重な高山植物の採取や裸地化が心配される、平標小屋～平標山頂の地域における自然保護パトロールを実施しますので、ご協力をお願いします。

6月 6日 沼田、独峰、前橋

12・13日 倉淵、高体連

19・20日 富士重工、ミヤマ

26・27日 境町、信越化学、登高会

7月3・4日 むすび、松井田

10・11日 岳想会、青空、高崎

17・18日 前橋、高体連、新治

24・25日 安中、片品、中之嶽

31・1日 伊勢崎、水上、吾妻

8月7・8日 高崎、境町

9月4・5日 登高会、伊勢崎、

信越化学

11・12日 中之家、むすび、高経大

18・19日 青空、前橋、ミヤマ

25・26日 富士重工、前高O

B、松井田

◇問い合わせ先 小泉俊夫(前橋)

☎027-265-0594

## 募集 指導標整備ボランティア活動

### 群馬県観光物産課

県では、平成11年度も引き続き、登山者の遭難防止対策の充実と自然保護を推進するため、山岳団体などがボランティアで行う指導標等の設置活動に対し助成を行うこととしました。県が助成する内容は、次のとおりです。

1 グループから提案された指導標の製作

2 指導標設置地権者への交渉

3 ボランティア参加者の保険加入 など

なお、指導標整備ボランティア

設定しました。

// 町田幸男(太田)

書記 清水裕千(むすび)

隊員 梁瀬佐市、清水福治、山

田重之、綿貫 剛(以上沼田)、

堀越利通、森戸健太郎、田島崇行

(以上登高会)、内山 栄、久保田

昌幸(以上前橋)、木村正巳(松

井田)、小澤 勝(独峰)、阿久津

幸弘、金子茂敏(以上太田)、星

野龍史、松永英明、福本誠史(以

上ミヤマ)

## 平成十二年度岳連カレンダー作品募集

### 事業部

九十九年度版カレンダーは皆様の協力により完売できました。現在次年度版の製作準備に入っておりますが、五月末現在ほとんど応募がない状態です。事業部として応募の協力をお願いし、何とか作り上げた努力致しております。過去の製作につきましても必ず何枚かの作品不足により、結局身近な人の写真で埋めて作り上げてきました。今回も同様に不足が予想されます。岳連会員皆様の作品協力により応募されませんと、決して良いカレンダーは出来ませんので、この点をご理解いただきまして次年度以降もご協力の程をお願い致します。

でも、より安価で中身のあるカレンダーであるための努力をしてまいります。岳連会員の方々におかれましては山行等の折には必ず素晴らしい写真を撮っていただき、カレンダーの一頁を飾るために応募していただけたらと願っております。

昨年度分につきましては増刷、値上げ、制作費のコストダウンが出来たことにより、費用の面と売上げの点でうまく行きましたことをここに報告致します。

## 救助隊結団式

### 群馬岳連遭難対策部

平成十一年度の救助隊の結団式が平成十一年四月十四日、群馬県生涯学習センターで行われました。当日は四月の理事会でしたが、隊

員に群馬岳連の救助隊であるということを自覚してもらおうことと、理事に隊員を知ってもらいたい激励してもらおうため、理事会と同じ日に

味の店 ドライバーレストラン

# 一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

くらしに緑を 家庭に花を 各種鉢物生産・販売・宅配

# 小野園芸

利根郡白沢村平出1005

TEL 0278-53-2749 温室 TEL・FAX 0278-53-3987

味のりんご

# アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802



墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店



# 高 橋 石 杖

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867  
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

## プ モ リ 電 設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



# (有) 山とスキーの店 石 井

## DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中心町18-8

TEL 0270-25-0272

# T. H. I. CORPORATION

TEL: 03(5245)0511  
 FAX: 03(5245)0510  
 (株) ティ・エッチ・アイ

## 登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

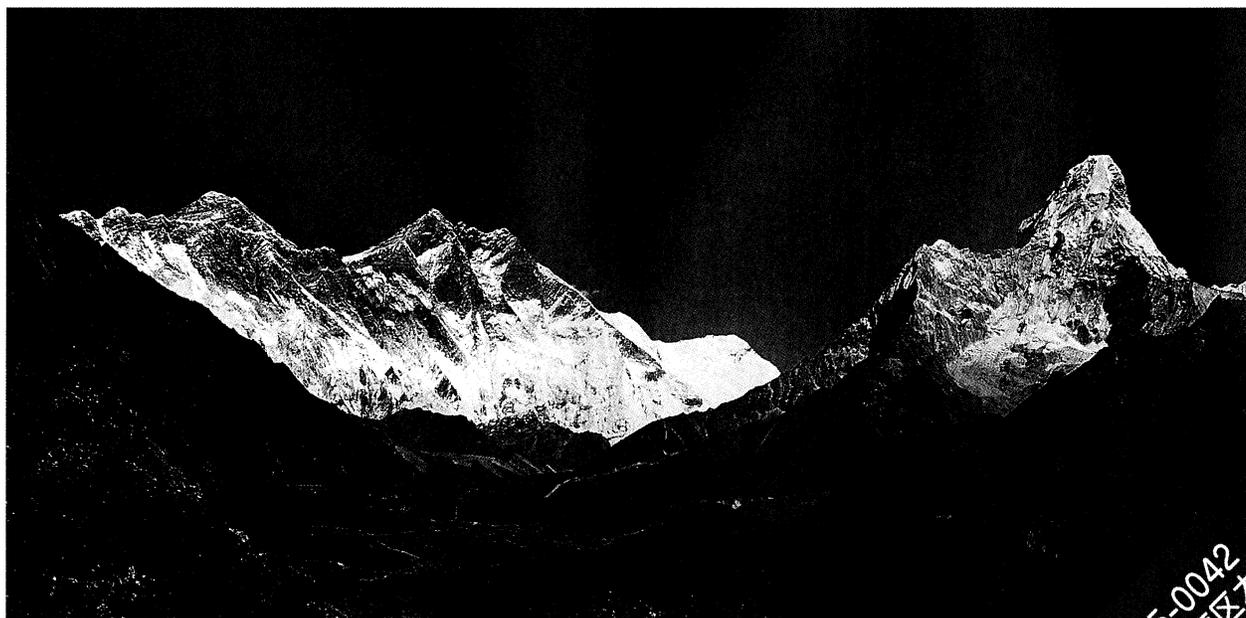
## トレッキング

- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

## ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

何でもお気軽にご相談ください



# T. H. I. CORPORATION

F135-0042  
 東京都江東区木場  
 2-5-7  
 KHビル7F



### 萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



## 総合建設業 萬屋建設株式会社

会長 星野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371  
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

### 株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

### 昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756  
 TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

### 日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111  
 大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

### 総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5  
 TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

### マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7  
 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964